

農産物直売所におけるイチゴ‘古都華’の 価格感度測定分析

背景と目的

- 奈良県のイチゴは、本県における主要農産物のひとつ
➢収穫量2,290 t、産出額40億円（2023年）
- 県内新規就農者はイチゴでの就農が多い
➢2018～2022年度：合計27人（全体の約52%）
- 本県育成のイチゴ‘古都華’は主力品種で、
主な出荷先のひとつ農産物直売所では、生産者が値決めを行っている



直売所の店頭に並ぶ‘古都華’

新規就農者の順調な経営のためには
イチゴの価格分析に基づく適正な価格設定が必要

結果

- アンケート調査による価格感度測定分析※（2025年4月実施）
 - ・‘古都華’を扱う県中部地域の直売所で、消費者を対象にアンケート調査を実施
 - ・消費者が最も買う可能性がある価格（理想価格）と、これ以上の高値をつけると買う人が減る可能性がある価格（最高価格）を求め、店頭価格と比較

※値決めの判断に活用される価格の分析手法

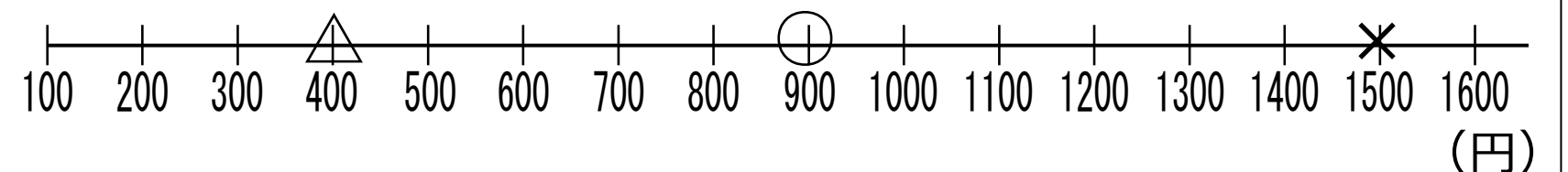




消費者が展示品
A、Bを見て
価格をつける



【アンケート用紙（抜粋）】

「安すぎて品質が不安」と感じる価格：△
「お買い得」と感じる価格：○
「高すぎて買わない」と感じる価格：×



商品形態（展示品の記号）		ゆりかーご（A）	デラックス（B）
店頭販売されていた商品の一例		 宙吊り包装	 底に緩衝材
店頭価格の幅		390～880円	750～950円
分析結果	最高価格	945円	881円
	理想価格	738円	709円

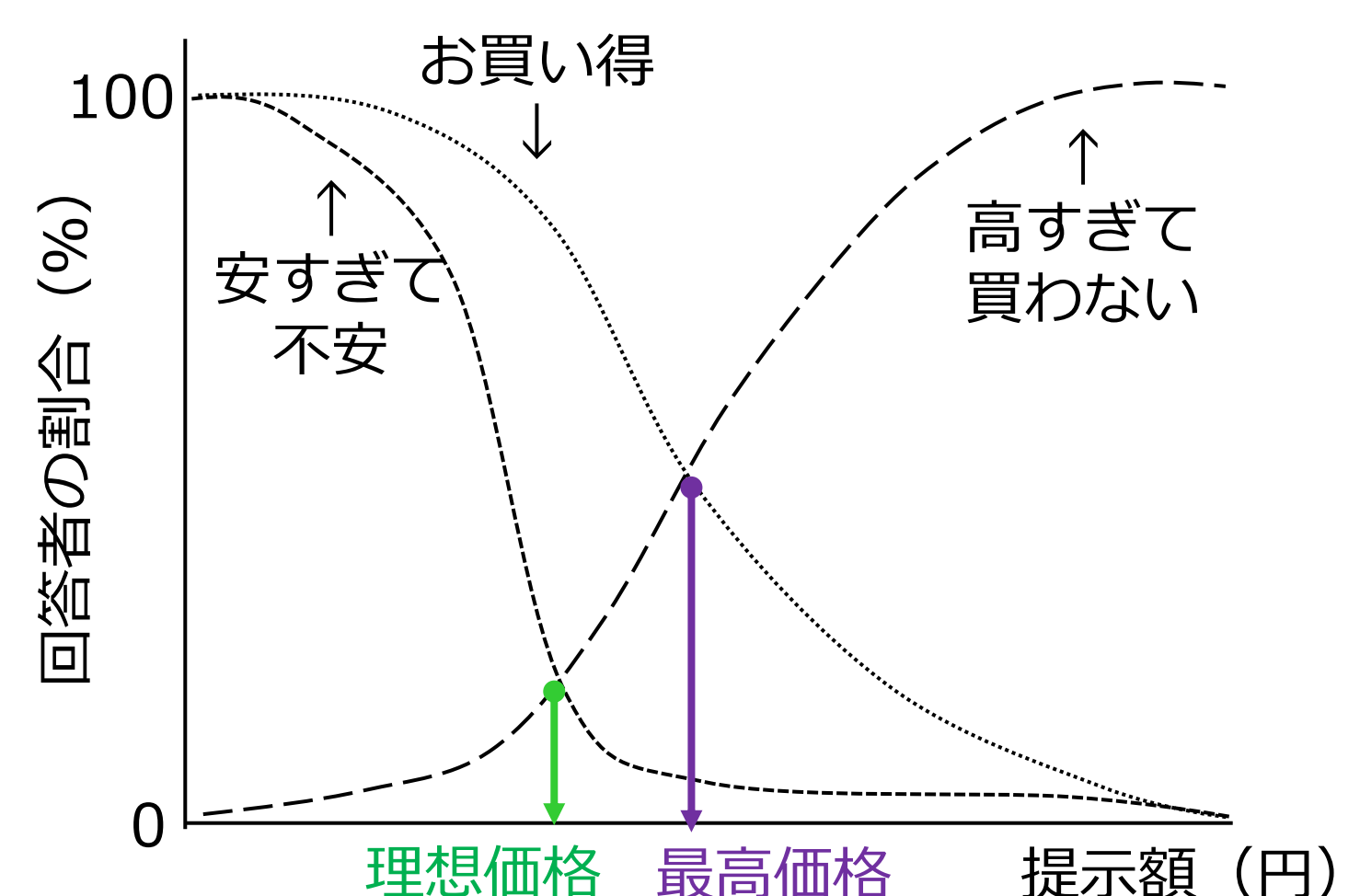


図1 調査当日に店頭販売されていた‘古都華’の価格と分析結果の理想価格および最高価格
2025年4月12日JAまほろばキッチン橿原店（橿原市）にて調査、n=152、価格は税込

図2 価格感度測定分析の模式図

- ・『ゆりかーご』では消費者の感じる理想価格より低く（—）、値上げしても受け入れられ、『デラックス』では最高価格より高く（—）、値下げの必要があります。

まとめと今後の取り組み

- 生産者と消費者の価格意識に差があるため、適正な価格設定の余地があると考えました。
- 今後は、パック代や果実の詰め作業の経費を考慮した価格分析を行います。

（2025年12月作成）